

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-1-107

補助事業名 平成24年度 学術・文化の振興のための活動 補助事業

補助事業者名 公益財団法人 ユニジャパン

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

日本映画産業の振興を目的として、海外に向けては国際映画祭への日本映画の出品支援や情報発信等の事業を行い、国内的には東京国際映画祭の開催を通じて、国際文化交流の促進と我が国の映像文化の発展を図ることをもって公益の増進に寄与する。

1985年の第1回以来、実施されてきた東京国際映画祭も第25回を迎える。国際映連(FIAPF)が認める長編コンペティション部門のある映画祭は世界で14のみ。その1つが東京である。一定の歴史を積み上げてきたとはいえ、60回を超えるベネチア、カンヌ、ベルリンには程遠く、また、地理的にもハンデがある極東の地でどれだけ世界に対して発信力を高めていくことができるかは今後も問われていく課題である。長期的な課題としては、よりすぐれた、且つ、プレミア性のある作品を多数世界各国から集めてくることである。これが出来れば、自動的に海外からの注目を集めることが出来る。また、注目度が高い場となれば、自然と優れた作品が集まってくる。東京国際映画祭がこのような場になれば、自ずと日本の作品にとっても海外へアピールできる大きな舞台として活用することが出来る。

このようなステージになるべく、継続的に実施していく事が必要である。その結果、日本映画産業のみでない経済効果も期待できることであろう。

(2) 実施内容

第25回東京国際映画祭の開催について

名 称：	第25回東京国際映画祭
主 催：	公益財団法人ユニジャパン (第25回東京国際映画祭実行委員会)
共 催：	経済産業省(マーケット部門)、東京都(コンペティション部門)
期 間：	平成24年10月20日(土)～平成24年10月28日(日)
企 画：	コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、ワールドシネマ、natural TIFF、日本橋で日本映画を見よう
会 場：	六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
後 援：	総務省／外務省／環境省／観光庁／(財)JKA／(独)国際交流基金／港区／(独)日本貿易振興機構／(社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／(社)日本映画製作者連盟／(社)映画産業団体連合会／(社)外国

映画輸入配給協会／モーショントピクチャー・アソシエーション（MPA）／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／（財）角川文化振興財団／（財）デジタルコンテンツ協会／（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団／（社）デジタルメディア協会／NPO法人映像産業振興機構／（社）日本映像ソフト協会／東京国立近代美術館フィルムセンター

支 援： 文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

補 助： 公益財団法人JKA（競輪補助事業）

スペシャルパートナー： トヨタ自動車(株)

オフィシャルパートナー： (株)木下工務店／日本コカ・コーラ(株)／キヤノン(株)

協 賛： ソニー(株)／(株)大和証券グループ本社／(株)クリーク・アンド・リバー社／(株)フェイス／(株)ファンケル／森ビル(株)／ソニーPCL(株)／凸版印刷(株)／(株)WOWOW／三井不動産(株)／(株)AOKIホールディングス／ヤマトホールディングス(株)／全日本空輸(株)／松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株)角川書店／日活(株)／富士フィルム(株)／TOHOシネマズ(株)／（社）映画演劇文化協会／(株)ティーワイリミテッド

特別協力： 読売新聞東京本社

オフィシャルラジオ： (株)J-WAVE

フードサポーター： (株)宗家源 吉兆庵

協 力： Cine Grid／帝人(株)／テレビ朝日／(株)J-WAVE／Getty Images ジャパン(株)／(株)Jストリーム／(株)クララオンライン／東京メトロポリタンテレビジョン(株)／ジュピターエンタテインメント(株)／(株)メディカル・プリンシプル社／(株)ビームス／(株)小田急百貨店

【開催概要】

第25回東京国際映画祭は平成24年10月20日(土)から10月28日(日)までの9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。各会場とも大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

「今こそ、映画の力」をスローガンに、映画力、交流力、情報発信力を目指した25回であったが、今年も復興支援への取り組みとして、TIFF/東北連携プロジェクト「今こそ、映画の力～映画『JAPAN IN A DAY[ジャパン イン ア デイ]』がつなぐ未来への一歩」等を実施することが出来た。

今映画祭の自主企画は29企画、動員数は107,173名、上映作品数は168本であった。提携企画まで入れると、企画総数は44、総動員数は257,440名、総上映作品数は359本となった。

オープニングセレモニーは10月20日(土)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田チェアマンの開会宣言の後、枝野経済産業大臣が祝辞を述べられ、続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

オープニング作品は、アンドリュー・アダムソン監督の「シルク・ドゥ・ソレイユ 3D 彼方からの物語」で、同監督と主演女優のエリカ・リンツ、及び、オフィシャル・ナビゲーターの上戸彩等の舞台挨拶もあり、会場は感動と興奮に包まれた。今年はまだ特別オープニング作品として、成田岳／フィリップ・マーティン共同監督の「JAPAN IN A DAY [ジャパン イン ア デイ]」も上映され、大いに賑やかなオープニングデーとなった。「シルク・ドゥ・ソレイユ」の終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、歓迎レセプション、グリーンタイ晩餐会が行なわれた。

クロージングセレモニー（授賞式）は、10月28日（日）TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「最優秀アジア映画賞」「日本映画・ある視点作品賞」の贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はロレーヌ・レヴィ監督の「もうひとりの息子」に、審査員特別賞はカン・イグアン監督の「未熟な犯罪者」に贈られた。

また、「最優秀アジア映画賞」はレイス・チェリッキ監督の「沈黙の夜」に、日本映画・ある視点作品賞は土屋豊監督の「GFP BUNNY-タリウム少女のプログラム -」に、「TOYOTA Earth Grand Prix」はヴァレリー・ベルトー／フィリップ・ウィチュス共同監督の「聖者からの食事」に贈られた。

【上映企画】

（1）コンペティション（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に2012年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月28日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事から賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万ドルが1作品に贈られた。

東京 サクラ グランプリ：『もうひとりの息子』（監督 ロレーヌ・レヴィ）

審査員特別賞：『未熟な犯罪者』（監督 カン・イグアン）

最優秀監督賞：ロレーヌ・レヴィ（作品『もうひとりの息子』）

最優秀女優賞：ネスリハン・アタギュル（作品『天と地のどこか』）

最優秀男優賞：ソ・ヨンジュ（作品『未熟な犯罪者』）

最優秀芸術貢献賞：パンカジ・クマール（作品『テセウスの船』撮影監督）

観客賞：『フラッシュバックメモリーズ 3D』

上映数 15作品 動員数 11,349名

(2) 特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数 22作品 動員数 8,589名

また、「特別上映」枠での上映数 7本 動員数 491名

(3) アジアの風

現在世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して選定した新作に「インドネシア・エクスプレス～3人のシネアスト」、「ディスカバー亜州電影～伝説のホラー&ファンタ王国カンボジア」の特集も含め25本を上映した。各作品のスタッフや出演者を招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映数 25作品 動員数 7,730名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万ドルが贈られた。また、スペシャル・メンションとして3本の作品が選ばれた。

最優秀アジア映画賞：『沈黙の夜』（監督 レイス・チェリッキ）

スペシャル・メンション：『ブワカウ』（監督 ジュン・ロブレス・ラナ）

『兵士、その後』（監督 アソカ・ハンダガマ）

『老人ホームを飛びだして』（監督 チャン・ヤン）

(4) 日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、ある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作品10本を上映した。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

作品賞：『GFP BUNNY - タリウム少女のプログラム - 』 監督 土屋豊

上映数 9作品 動員数 2,329名

(5) ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 12作品 動員数 7,162名

(6) natural TIFFF

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数 8作品 動員数 1,892名

TOYOYA Earth Grand Prix

「natural TIFF」部門で上映された新作と、他部門での上映であっても、この趣旨に沿った作品対象に、審査委員会の審査により1作品が選ばれ、賞金5千ドルが贈られた。また、審査員特別賞も1作品に与えられた。

TOYOTA Earth Grand Prix : 『聖者からの食事』(監督 ヴァレリー・ベルトー／フィリップ・ウィチュス)

審査員特別賞 : 『ゴミ地球の代償』(監督 キャンディダ・ブラディ)

(7) 日本橋で日本映画を見よう

10月23日～25日の3日間、コレド室町内にある日本橋三井ホールを使って、6本の新旧の日本映画を上映。舞台挨拶、及び、トークショーも大いに盛り上がった。

上映本数 6作品 動員数 978名

(8) みなと上映会

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「アーネストとセレスティーヌ」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならず、アリーナでも行った。

上映本数 14本 動員数 679名

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画・ある視点 作品賞)。
- ④ natural TIFF 部門の優秀作品に対する顕彰(TOYOTA Earth Grand Prix)。

[運営]

① 自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの風」「日本映画・ある視点」、「WORLD CINEMA」、「natural TIFF supported by TOYOTA」及び「日本橋で日本映画を見よう」を実施した。

② 上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

主要上映会場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ(9スクリーン)、シネマート六本木(2スクリーン)、日本橋三井ホール(1スクリーン)

また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

- グランドハイアット東京：オープニング・レセプション、グリーンタイ晚餐会の会場として使用。

- アカデミーヒルズ：49階（東京国際映画祭事務局、プレスセンター、記者会見、各種取材、各種セミナー実施、TIFFCL パーティー感謝のタベ）2階（インフォメーション・デスク、IDカウンター）
- ヒルズカフェ：TIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として使用。
- 六本木ヒルズ 大屋根プラザ：グリーンカーペット・エリアとして使用。
- 六本木ヒルズ アリーナ：オープニング・イベント、及び週末の各種イベントの実施に使用。

③ 入場料金

- 公式オープニング作品／特別オープニング作品・・・¥2,000-
- 公式クロージング作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥2,000-
- コンペティション・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,000-
- 特別招待作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,800-
- アジアの風・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,300-
- 日本映画・ある視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,300-
- WORLD CINEMA・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,300-
- natural TIFF supported by TOYOTA・・・・・・・・・・¥1,300-
- みなと上映会・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,000-
- 日本橋で日本映画を見よう・・・・・・・・・・¥1,000-
- 特別上映・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥2,500-

※公式/特別オープニング作品、及び、公式クロージング作品を除き、当日の学生料金を500円均一とした。

④ 会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

- オープニング・イベント：10月20日(土)、グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。
- 25th TIFF×J-WAVE SPECIAL CINEMA TALK & LIVE
10月21日(日)、音楽、映像、車をテーマに第25回東京国際映画祭とJ-WAVEのコラボレーションイベントを六本木ヒルズアリーナで開催。
- みなと上映会の実施
10月27日(土)毎年恒例のハロウィンイベントに引き続き。テレ朝ビジョンを使ってのヴォイスオーバー上映を実施した。

(TIFF movie cafe)

- 会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェをTIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として、様々な企画を行った。
- コンペティション作品記者会見、国際審査委員記者会見、各種パーティー
- TIFF night：DJやライブ演奏など
(グリーンカーペット・エリア)

六本木ヒルズ 大屋根プラザをグリーンカーペット・エリアと称して、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズ・アカデミーヒルズエントランス内にて実施した。広く一般の六本木ヒルズ来場者に映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者への案内業務を行った。

⑥ ボランティア/インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらった試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFFオフィシャルグッズとして、ピンバッジ、エコバッグを作成した。エコバッグは、SHIPSとのコラボレーションバッグで好評であった。

[広報活動]

① プレスセンターの設営と運営

会期中、六本木ヒルズ 森タワー49F アカデミーヒルズ内にプレスセンターを設営、国内、国外のプレス参加者に対し、映画祭の上映、記者会見、Q&A、イベントなどのアナウンスを行う。また、世界各国への映画祭ニュース配信を円滑化すべくPC10台を配し、プレスに開放した。

② 新聞広告の掲載、ポスター等街頭広告の制作設置

読売新聞にて、平成24年10月5日東京7段と10月6日中部5段、10月12日東京7段と中部5段、10月19日東京7段と中部5段の広告掲載。1550枚のポスターを都内の劇場を中心に配布。

③ 予告編、作品先付フィルムの制作と劇場上映

平成24年9月22日を解禁日とし、会期中まで、都内を中心に約250スクリーンにて予告編を上映。

会期中の公式上映全てに先付フィルムを添付。

④ モバイル用アプリケーションの制作

iPhone、iPad、アンドロイド向けのアプリケーションを制作、チケット発売（平成24年10月6日）にあわせ公開。



①TOHO シネマズ六本木
ヒルズ 上映時
(上映前の先付)



②会場内ポスター掲示
六本木ヒルズ大屋根下他

© 2012 TIFF



③クロージング「感謝のタ
ベ」バックパネル 依田チ
ェアマン、高井理事長

© 2012 TIFF



④上映時Q & A （舞台換
拶時ポスター）

東京 サクラ グランブ
リ受賞作『もう一人の息子』
ロレーヌ・レヴィ（監督）、
ジュール・シトリュク（俳
優）、ヴィルジニー・ラコン
ブ（プロデューサー）

© 2012 TIFF

2 予想される事業実施効果

東京国際映画祭で賞を取った日本のインディペンデント映画が、これを皮切りに海外映画祭に出品されるという流れは年々強化されてきている。その結果、今まで以上に日本のクリエイターが海外へ出ていくプラットフォームとして、東京国際映画祭が意識されるようになってきている。

また、東京国際映画祭で上映した海外の映画がその後、国内配給権の販売につながる形も数多く出て来ている。「最強のふたり」はそのもっとも成功した例。

いずれも、東京国際映画祭という場に取り上げられる上映作品のクオリティの高さが評価されての事。ひいては、東京国際映画祭が世界的な評価の発信基地になり得るし、今まで以上に映画産業全体の活性化も促すことになる。

3 本事業により作成した印刷物等

公式記録	5,000部
ポスター	1,550枚
都営交通駅貼りポスター	150枚
都営交通駅中吊ポスター	3,000枚

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 ユニジャパン
(コウエキザイダンホウジン ユニジャパン)

住 所： 104-003
東京都中央区新川一丁目28番44号

代 表 者： 代表理事・理事長 迫本 淳一 (サコモトジュンイチ)

担 当 部 署： 総括管理部 総務グループ (ソウカツカンリブ ソウムグループ)

担 当 者 名： 統括プロデューサー 川崎 浩 (カワサキヒロシ)

電 話 番 号： 03-3553-4780

F A X： 03-3553-4785

E - m a i l： hiroshi.kawasaki@uni-japan.org

U R L： <http://uni-japan.org/>